

私立大学研究ブランディング事業

2019年度の進捗状況

| | | | | | |
|--------------------|--|-------|--------|------|-------|
| 学校法人番号 | 171002 | 学校法人名 | 金沢工業大学 | | |
| 大学名 | 金沢工業大学 | | | | |
| 事業名 | ICT・IoT・AIの先端技術を活用した地方創生 | | | | |
| 申請タイプ | タイプA | 支援期間 | 5年 | 収容定員 | 5920人 |
| 参画組織 | 工学部、情報フロンティア学部、建築学部、バイオ・化学部、地域防災環境科学研究所、情報技術研究所、ものづくり研究所、先端材料創製技術研究所、FMT研究所、地域共創イノベーション研究所、生活環境研究所、感動デザイン工学研究所、電気・光・エネルギー応用研究センター、地方創生研究所 | | | | |
| 事業概要 | 「ICT・IoT・AIの先端技術を活用して新たな里山都市を創生する大学」というブランド確立を目指し、我が国の重要課題である過疎地を研究フィールドとした「里山都市」において、産業界・自治体とともに本学研究所群が持つ多様な要素技術を集結した産学連携型研究を進める事で、里山都市の新たな機能(ライフスタイル)創生を行い、地域に貢献する理工系総合大学として、地方創生イノベーションの実現と社会への価値発信を行う。 | | | | |
| ①事業目的 | <p>本学は、イノベーション創出を支援すべく、平成29年に過疎地域と呼ばれる白山市中山間部に新たに建設する金沢工大白山キャンパスに研究機能の一部移転を計画している。</p> <p>過疎地域への研究機能の進出を決定した最大の理由は、既存の経済圏に捉われず、大都市から一線を画した場所で、未来志向に基づいた新たな都市を創造できる環境こそがイノベーションを創出するために最も効果的であると捉えたからである。また、都市消滅という危機的な状況を打開するためには、既存の人々の豊かな生活を支える自然や街・コミュニティといった重要な里山の機能を保ちつつ、安心・安全の暮らしを実現するために地域防災・エネルギー・教育・福祉・医療・産業振興といった分野のライフスタイルの変革が過疎地域に必要である。これらを踏まえ、地方都市におけるイノベーション創出及びライフスタイル変革のフィールドとなる新たな街を「里山都市」として位置づけ、その必要性を地元産業界・地域社会・自治体の方々と共有し、都市そのものを研究対象とすることで、地元産業界の新たなイノベーションに向けたチャレンジを喚起する実践的な産学連携研究を推進していく。</p> | | | | |
| ②2019年度の実施目標及び実施計画 | <p>平成31年度：里山都市イノベーション創出に向けた研究プロジェクトの成熟 4つの都市研究レイヤー・各研究プロジェクトから生み出された成果を収斂した里山都市イノベーションモデルの構築を推進する。</p> <p>研究プロジェクト数 7(参加企業数 25社)、パートナー企業数 300社 交流者数 750人、プロダクトサービス数 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ●里山都市イノベーションプロジェクト創出セッション開催 ●ブランディング広報発信のコンテンツ制作 ●里山都市イノベーションプロジェクト創出 ●イノベーション里山都市フォーラム開催 ●評価委員会開催 | | | | |
| ③2019年度の事業成果 | <p>白山麓の中山間地(白山市瀬戸)に設置した地方創生研究所の主な活動拠点である白山麓キャンパス「イノベーションハブ」を拠点として、以下の事業を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①パートナー企業との連携を強化するための「地方創生研究所イノベーションハブメンバーシップ・プログラム」を継続して実施した。(参加企業:10社) ②情報発信の方策検討を行い、地方創生研究所HPのリニューアルを実施した。 ③里山都市イノベーションプロジェクトとして、新たに5G PRJ、UX PRJを創出した。 ④KIT地方創生イノベーションシンポジウム「Society5.0社会を目指した5Gによる教育研究イノベーションの創出」(5Gイベント;参加企業59社)を10月に、地方創生里山都市フォーラム～研究力で進めるこれからの地方創生～(参加企業48社)を令和2年2月に開催し、本事業の進捗状況や各プロジェクト概要について、参加企業に対して情報発信を行った。 ⑤2019年度事業成果に関し、これらの結果を踏まえて、2020年3月に白山市及び北陸産業活性化センターより外部評価を受けた。 | | | | |

| | |
|----------------------------------|---|
| <p>④ 2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p> | <p>(自己点検・評価) 5つの指標を基に評価を行った。(達成度)</p> <p>① 研究プロジェクト創出数(目標7プロジェクト):11プロジェクト(157%) H30年度までの9PRJに加え、今年度新たに2つのプロジェクトを創出することができた。</p> <p>② プロジェクト参加企業数(目標25社):41社(164%) 創出プロジェクト数が当初目標を大きく上回ったため、参加企業数も増加した。</p> <p>③ パートナー企業数(目標300社):345社(115%) 本学が事務局を務める白山市IoT推進ラボコンソーシアム会員企業数、メンバーシップ参加企業数、イベント参加企業数等より算出した。</p> <p>④ 交流者数(目標750人):746名(99.5%) 今年度開催した各種イベント(シンポジウム、里山都市フォーラム、セミナー等)の参加・交流人数より算出した。</p> <p>⑤ プロダクトサービス数(目標3):3(100%) 創出したプロダクトサービス(農業ICT摘果ロボット、エネルギーマネジメントシステム、廃材瓦駐車場)。</p> <p>今年度の成果としては、概ね目標値を達成できたが、交流者数については新型コロナウイルスの影響で年度末に開催予定だったイベントを次年度に延期したため目標を達成できなかった(開催7日前までの参加申込者数は見込み人数としてカウントした)。</p> <p>(外部評価) 今年度の事業成果及び来年度以降の活動方針を白山市及び北陸産業活性化センターに説明し、以下の意見を頂いた。 産業界からの視点としては白山麓キャンパスは、オープンイノベーション実践の場として好適であり、事業終了後も継続した情報発信を期待している。 自治体視点として、4年の事業期間を通じて地域対策の課題に取り組んでいただき感謝している。今後は5Gなど新技術を活用した取り組みにも期待したい。また白山麓の自然環境の、教育・研究の分野での活用を期待している。</p> <p>H30年に開設した白山麓キャンパスを事業完了後も地方創生に取り組む企業の拠点として活用し、地域連携を深め、白山麓全体を学びのフィールドとする高水準教育エリアの具現に期待したい。また、白山麓キャンパスが地方創生に取り組む企業の拠点となることで、北陸産業界の活性化につながると期待している。</p> |
| <p>⑤ 2019年度の補助金の使用状況</p> | <p>研究費:バイオマスボイラ周辺機器(エネルギーマネジメントPRJ) 広報・普及費:広報用パネル作成、リーフレット作成、ホームページ作成、シンポジウム関連費 その他:報告書作成、表示ボード作成、フォーラム講師謝金、情報発信・収集調査旅費</p> |